

総括

[目的] 地域に根差した産業を核とした産業の集積（クラスター）を推進
 （一次産業から三次産業までの多様な仕事を創出＋地域の経済波及効果）

[成果]

- (1) これまでのプロジェクトの取り組みを通じて、クラスターの核となる一次産業では一定の基盤整備が整い、生産拡大や雇用の創出が図られてきた。
- (2) 二次、三次産業の展開が進み、新たな加工品の開発や飲食店でのメニュー化等が進み、観光振興につながったプロジェクトも生まれている。

[課題]

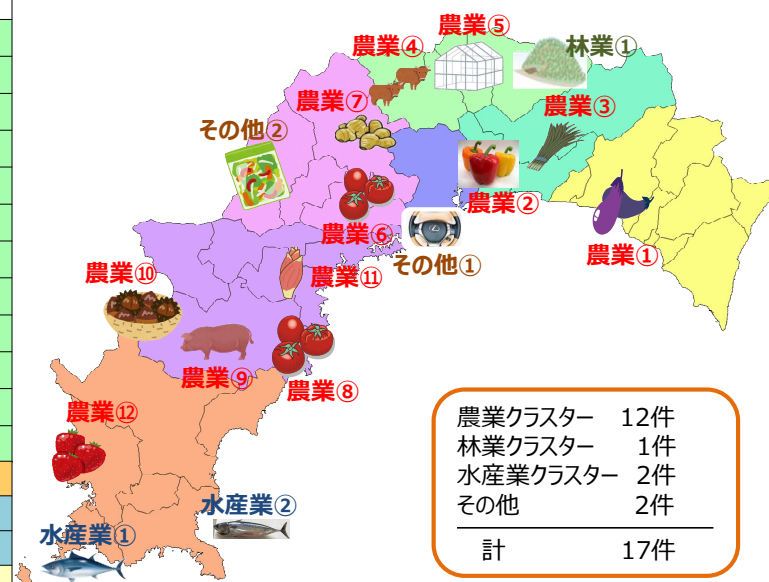
- (1) 二次、三次産業については、一次産業からの展開が十分ではなく大きな拡がりにつながっていないプロジェクトがあるなど、各地域の資源を生かした六次産業化の取り組みにとどまっているものが多い。
- (2) 制度開始から約8年が経過し、プロジェクトを取り巻く環境の変化により、加工用青果の調達難や原魚不足等、当初想定との乖離も発生してきている。このため、今後の取り組みの推進に当たっては、それぞれのプロジェクトの進捗や課題、取り組み内容に応じた支援方法の見直しが必要。

今後の方向性

- (1) 「地域産業クラスタープロジェクト」としての位置づけは見直し、引き続き一次産業から三次産業までの多様な仕事の創出に取り組むものについては、地域アクションプランの下で一体的に推進する。
- (2) プロジェクトの取り組みが軌道に乗っているものについては、自立を検討する。
- (3) 一次産業から二次・三次産業への展開が見込めないなど、クラスターの形成が困難なものについては、取り組み内容の見直しを行う。

地域産業クラスタープロジェクトの展開

分野	地域	クラスタープロジェクト（CP）名	主な指標と評価			
			一次	二次	三次	
農業	安芸	①日本一のナス産地拡大CP	出荷量 S	加工品開発数 A	—	
		物部川	②南国市農業CP（ニラ、シシトウ、ピーマン類、還元野菜）	生産量 B	新商品数 D	—
			③日本一のニラ産地拡大CP	販売額 B	—	イベント日数 S
	嶺北	④嶺北畜産CP（土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏）	あかうし販売額 S	—	さめうら荘利用者 D	
		⑤本山町施設園芸生産拡大CP（パプリカ）	出荷量 A	—	交流人口拡大 S	
	仁淀川	⑥日高村トマト産地拡大CP	販売額 B	商品開発件数 B	オムライス販売数 B	
		⑦いの町生姜生産・販売拡大CP	出荷量 S	加工品開発数 S	—	
	高幡	⑧四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化CP	販売額 C	加工品売上額 —	—	
		⑨四万十のうまい豚CP	出荷頭数 C	加工品売上額 S	—	
		⑩四万十のうまい栗・芋CP	JA乗集荷量 B	加工品売上額 S	—	
		⑪くろしおミョウガ生産拡大CP	出荷量 A	—	メニュー定番化 S	
幡多	⑫宿毛市イチゴ・柑橘成長CP	イチゴ販売額 A	—	加工品等開発 S		
林業	嶺北	①嶺北林業CP	素材生産量 B	加工品売上額 D	研修宿泊者数 D	
水産業	幡多	①宿毛・大月養殖ビジネス高度化CP	マダイ生産 S	加工品出荷額 B	観光入込客数 D	
		②土佐清水メジカ産業CP	漁獲量 D	宗田節出荷数 C	観光入込客数 B	
その他	高知市	①竹資源活用CP	売上額 —	加工品売上額 D	—	
	仁淀川	②仁淀川町における(株)フードプランを核としたカット野菜事業CP	農業従事者数 A	端材活用量 A	入込客数 —	



※「評価」は、代表的な数値目標に対する達成見込み。評価基準は地域アクションプラン（資料2-3）と同じ。

【農業】 四万十次世代ハウス団地におけるトマト等栽培の経営強化 クラスタースタートプロジェクト

次世代施設園芸団地で栽培されているトマト及びパプリカの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、輸出の検討等、新たな販路の開拓を行い、次世代団地の経営強化を図る。

地域: 四万十町
 実施主体: 四万十町、四万十とまと(株)、(有)四万十みはら菜園、(株)ベストグロウ、
 四万十あおぞらファーム(株)、山本商店

取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスターの形成による新たな雇用の創出 ・病虫害防除対策指導、新規品目への転換・ASIAGAP取得支援 ・木質バイオマスボイラーの整備 ・規格外品トマトを使った加工品の開発と販路開拓
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出(年間) R元: 69人 → R4: 77人 ・農産物等出荷販売額(年間) R元: 6.0億円 → R4: 5.1億円 ・加工品の販売額(年間) R元: 20万円 → R4: -
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の雇用を維持、繁忙期の雇用確保 ・生産安定に向けた病虫害防除対策の推進 ・青果での単価を高めた販売の拡大 ・木質バイオマスに代わる加温施設の検討



【農業】 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト

安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。

地域: 四万十町
 実施主体: 四万十ポークブランド推進協議会(窪川養豚協会 (有)渡辺畜産、(農)平野協同畜産、(農)四国デュロックファーム、(株)山中畜産)、(株)七星食品、高知県農業協同組合(高西支部)、高知県農業協同組合農畜産部畜産課、JA西日本くみあい飼料(株)、四万十町 等)

取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生産基盤の強化に向けた畜舎の整備 ・「四万十ポーク」商標取得(ロゴ) ・商談会等の外商活動による販売の拡大 ・精肉直売所の整備
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・豚肉出荷頭数(年間) R元: 30,063頭 → R4: 25,332頭 ・雇用の創出(累計) R2~5見込 2名 ・加工品売上高(年間) R元: 105,881千円 → R4: 135,000千円
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料コスト削減や生産性向上など構造転換による経営体質の強化 ・「四万十ポーク」の地域団体商標取得に向けた取り組みの実施 ・(平野) 自社店舗他で販売する豚肉を使用した加工品開発及び販路拡大



【農業】 四万十のうまい栗・芋クラスタープロジェクト

大正・十和地域の栗と芋の加工に携わる事業者が主体となって、JAや地域内の生産者、さらには四万十流域の生産者とも連携し、農業者所得の向上と6次産業化の仕組みを作り、中山間地域の活性化を目指す。

地域: 四万十町
 実施主体: 四万十町、しまんと新一次産業(株)、(株)十和おかみさん市、清流栗庵、(株)四万十ドラマ、
 (株)無手無冠、JA高知県十和支所

取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・栗の新改植の推進、低樹高剪定技術の普及 ・製菓新商品の開発・販売 ・ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・JA栗集荷量(大正・十和)(年間) R元: 12.8t → R4: 14.9t ・人参芋生産量(四万十の芋P協議会)(年間) R3: 24t → R4: 46t ・(株)四万十ドラマの加工品販売額(栗・芋)(年間) R3: 2.4億円 → R4: 3.4億円
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・栗及び芋の加工品原料の確保 ・新規生産者の確保、栽培技術の向上による安定生産、機械化による労力軽減、原料保管施設の整備 ・優良園地の継承を含めた新規栽培者・後継者の確保 ・新商品の開発と販路拡大



【農業】 くろしおミウガ生産拡大クラスタープロジェクト

JA土佐くろしお管内(須崎市・中土佐町・津野町)で栽培するミウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミウガの消費拡大を目指す。

地域: 須崎市、中土佐町、津野町
 実施主体: JA土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町、(株)E-システム

取り組みの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤシガラ培地活用施設(ストックヤード)の活用 ・ミウガ料理メニューの考案や、消費宣伝活動 ・収量、品質の向上に向け栽培講習会、試験圃の設置
主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・新規雇用者数(累計) R3~4: 6名 ・メニューの定番化(累計) R3~4: 14品 ・生産拡大面積(累計) R4: 29a ・出荷量(年間) R元: 3,614t → R4: 3,660t
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型養液システムの推進、収量、品質の向上に向けた取り組み周知 ・生産拡大に向けたハウス等の整備 ・ヤシガラ活用スキームの取り組み確認 ・地域内外での消費拡大や販売促進



みょうがのちらし寿司